

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090200058		
法人名	株式会社 すずらん		
事業所名	グループホーム すずらんの家 (すみれユニット)		
所在地	〒808-0104 福岡県北九州市若松区大字畠田25-1 Tel 09-772-1200		
自己評価作成日	令和02年11月15日	評価結果確定日	令和03年01月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 Tel 093-582-0294		
訪問調査日	令和03年01月08日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周囲を緑豊かな自然に囲まれた高台に位置し、四季折々の変化と触れ合うことが出来ます。居室は全室個室で、各部屋9.5畳の広々としたプライベート空間で、これまで使われてきた愛着のある家具を持ち込むことが可能です。又、居室前の共用フロアでは、お食事や他のご利用者様との雑談や交流を楽しむこともでき、個別での機能訓練や体操、趣味活動等を行う場としてもご利用いただけます。敬老会やクリスマス会等の季節行事、お花見など豊富な行事プログラムを準備しています。地域に根ざした施設として近隣高校から体育祭の招待を受け毎年見学に行っております。又、三味線や日舞等様々なボランティアの慰問を受けあらゆる世代や地域との交流を図りお互いの絆を深めています。介護サービス相談員の来所で入居者様の心のケア、職員との情報交換にも取り組んでいます。入居者ご家族様には毎月のお手紙を添えて「すずらん新聞」を発行し入居者様の様子をお知らせすると同時に、施設行事への参加を促すなど、皆様により開かれた、立ち寄りやすい施設を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念をユニット内に掲示している。毎朝朝礼時に唱和行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣高校との交流にて毎年体育祭等の招待を受けている。又、地域ボランティアの慰問等もあり地域の方々との交流もある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々のボランティア活動を通じて入居者様との触れ合いの中で認知症への理解と支援を深めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様・ご家族様・地域民生員・地域包括支援センター・施設職員にて意見交換を通じ、サービスの質の向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護課・介護保険課・地域包括支援センターへの相談、報告を密に行い、協力・連携体制の強化・構築に繋げている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な学習会やユニットミーティング等で意識づけを行い、普段の支援にて必要に応じて都度話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	定期的な学習会やユニットミーティングにて意識と正しい知識の工場を図り、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護制度については学習会やユニットミーティングにて理解を深められる機会を作っており、今後も職員全体への理解に継続して取り組んでいく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時は、契約書・重要事項説明書等の内容の説明の時間を設け、又、ご契約後のお問い合わせ等にも都度対応し、入居者様及びご家族様の理解・納得を図っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	移設内に意見箱を設置。ご家族の面会時にご意見ご要望を伺い、集約を図り、施設運営に反映させている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットミーティングや管理者会議、個別面談等を通じて、職員からの意見、提案を聞き取り、施設運営に反映できるように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は一人ひとりの業務遂行状態を把握し、評価に努めている。雇用条件の見直しや職場環境の改善を図っている。①個別面談②パート勤務者の労働時間の応相談等。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員募集、採用に際し、性別・年齢・経験の有無で排除する事なく、幅広い人材の確保に努めている。又、管理者、先輩職員による指導、外部・内部研修を通じて未経験からでも生き生きと長く働き、社会参加や自己実現の権利が保障されるよう努めている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	定期的な学習会やミーティングにて、認知症ケア・虐待防止・倫理・法令順守等について学ぶ機会を作り職員の啓発活動に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は管理者や一人ひとりの経験能力・及び本人の自覚と意欲に応じた研修や講習への参加を促している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域事業所とのネットワーク組織に所属し、同業者と交流する機会を作り、同業者間の協力・信頼関係を構築し、サービスの質の向上繋がるよう取り組み行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人様及びご家族様に面談を行い、状況・状態それに伴うニーズの把握に努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様との面会時には話しやすい環境、雰囲気作りに努め傾聴心掛け、ご家族様の気持ちに寄り添う事で信頼関係を築いている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の見学や体験入居。ご本人様及びご家族からの直接の聞き取りや関係機関からの情報提供を受け、まず必要とされている支援・サービスの把握・提供に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活を通して各々の個別能力を引き出しながら互いに寄り添い支えあう関係作りに取り組んでいる。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族へは月1回手書きのお手紙とすずらん通信・写真等で入居者様の様子、状態等を伝えている。又、電話等でも連絡をとり、繋がり、絆を深め、共にご本人様を支える関係を構築している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、遠方からのご家族の面会ある。又、電話等でもご家族との会話等の支援も行っている。		
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方向士が近くに座るように誘導行っている。ご利用者様同士のトラブルに繋がらないよう椅子の位置を変えたり、職員が間に入り関わりを作れるように努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後のご本人様及びご家族様からの連絡にも迅速に対応し必要に応じて支援・相談に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様やご家族からの聞き取り等普段のご本人様の様子や関わりの中で個々の暮らし方や、要望の把握に努め、聞き取りが困難な場合は本人本位に検討行っている。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人ご家族様より生活歴等、日頃のコミュニケーションを通じて一人ひとりの思いや暮らしに関する要望の把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人様の好まれる事等本人のペースに合わせ、又、ご本人様の身体機能・心身状態に合わせできる事の支援行っている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に介護計画の実践状況・ケアチェック表・主治医・訪問看護師・訪問歯科医等の意見を参考に職員間で話し合い検討行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録・連絡ノートの活用・日々の申し送り・ユニットミーティング等を通じて職員間での情報の共有を図り、実践や介護計画の見直しに取り組んでいる。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様の心身状態の変化、ご家族様の状況変化等、様々なニーズに合わせた柔軟な支援サービスの提供に取り組んでいる。又、ユニット合同でのレクやデイサービスでのボランティアによる催事への参加の機会もある。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	役所・所轄の警察・消防署・地域民生員・ボランティア・近隣教育機関との協働を行い、安心・安全な豊かな生活が送れるよう支援行っている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に施設協力医、かかりつけ医を変更するケースが多いが、あくまでご本人様・ご家族の希望・意向を優先している。体調の変化等あれば主治医へ連絡し指示を仰ぎご家族様へも報告を行っている。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護がある。1週間の体調の変化等伝えている。訪問日以外でも、電話にて助言、指示をもらい利用者様が適切な受診や看護を受けられるように支援行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に必要に応じ病院側へ基本情報を提出。入院中はご家族・病院と密に連絡を取り合い情報の共有に努めている。又、退院へ向け主治医・ソーシャルワーカー等の医療関係者・ご家族と協議を重ね施設への再受け入れに備えている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や看取りについては、入居時にご家族へ施設の方針を説明尾kなっている。必要時は、医療・介護・訪問看護等関わっている関係者と取り組んでいく体制がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを基本に定期的な勉強会・ユニットミーティング等にて実践力の向上を図っている。又、主治医の指示による救急搬送要請やご家族への電話連絡を的確に行い、病院搬送がスムーズに行えるように備えている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を実施。朝礼やユニットミーティングにて災害時や火災時の非難等については定期的に職員へ意識付けを行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	学習会にて定期的に勉強会行っており、普段からお互い声掛けあい、言葉遣いや対応を気をつけている。繰り返し話し合うことにて職員の意識付けの向上に努めている。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるようにわかりやすい言葉掛けを工夫している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れの中で本人のペースや体調に合わせた対応を行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望を聞き洋服の組み合わせを決めたり、理容・美容の日に希望のヘアスタイルを提案している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳時にメニューの説明行っている。利用者様の状態や変化に応じて食事形態を変えたり、使いやすい器等にて自力摂取を支援している。配膳・下膳・方付け等一緒に行ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が考案した栄養バランスのとれた献立を入居者様の能力に応じた食事形態で提供。水分も一定量以上摂取できるように1日数回支援行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後利用者様の状態に応じて口腔内のケア行っている。又、希望者には訪問歯科での治療行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様一人ひとりの排泄パターンに合わせて時間毎のトイレ誘導おこない、トイレでの排泄促し排泄の自立支援行っている。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の軽運動やこまめな水分補給行い、個々に応じた予防と対応行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の体調に合わせて、少なくとも週3回の入浴支援を行っている。入浴中も寛いでいただけるようコミュニケーション心掛けている。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温・湿度・照明・寝具・服の調整等、本人の状態に合わせ、気持ちよく睡眠とれるように支援心掛けている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個々のファイルに保存し、いつでもすぐに確認できるようにしている。変更や追加があった時には連絡ノートに記載し、申し送り行い情報の共有を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族様からお菓子やジュースをお預かりし、少しづつ提供している。本人が好まれる事等、それぞれが楽しみの時間を作れるように支援を行っている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じた外出レクを実施している。自立に近い方は職員と一緒に施設周辺の散歩等を行っている。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様の希望に応じた買い物支援は行っていない。現在の入居者様の状態・状況を考慮し、ご家族様と相談の結果、ご本人が金銭を所持する方はおられない。又、施設として預かり金取り扱っていない。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が希望された時、職員がご家族様へ連絡し、取り次ぐ形にて、電話にて会話していただく支援を行っている。又、お手紙については、取次ぎ、朗読のサービス提供している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	床のマットをリビングと食卓で変えてわかりやすいようにしている。又、ベランダにて季節の花々育て季節感・気分転換図っている。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内は各々好みの場所やソファーに座られて過ごされている。それぞれがゆったり過ごしていただけよう配慮している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様ご家族様の希望に応じ使い慣れた家具や好みの物を持ち込んでもらい生活しやすいように工夫している。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ユニット内や施設館内に手すりを完備し安全に移動できるよう配慮。トイレや浴室・居室にはわかりやすいネームプレート取り付け、安全且つ自立した生活が送れるように努めている。		